

平成28年1月定例教育委員会会議録

平成27年度塩尻市教育委員会1月定例教育委員会が、平成28年1月21日、午後2時30分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 2月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について

4 議 事

- 議事第1号 小中陸上記録会、市民水泳大会について
議事第2号 塩尻警察署と塩尻市内及び朝日村内における教育委員会との間の児童生徒の健全育成に係る相互連絡に関する協定書について

5 その他

6 閉 会

○ 出席委員

委員長	小 澤 嘉 和	職務代理者	林 貞 子
委員	石 井 實	委員	小 島 佳 子
教育長	山 田 富 康		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	岩 垂 俊 彦	こども教育部次長 (教育総務課長)	青 木 実
こども課長	青 木 正 典	家庭支援課長	百 瀬 公 章
生涯学習スポーツ課長	中 野 昭 彦	平出博物館長	中 島 伸 一
市民交流センター長 (図書館長)	伊 東 直 登	市民交流センター次長 (交流支援課長)	小 松 秀 樹
子育て支援センター所 長	掛 川 佳 子		

○ 事務局出席者

スポーツ推進係長 田 下 高 秋 社会教育係担当係長 石 井 健 郎
スポーツ推進係主事 小 林 洋 子 教育企画係長 米 窪 昌 紀

1 開会

小澤委員長 時間になりましたので、ただいまから1月の定例教育委員会を開会いたします。

初めでありますので、一言感想めいたことをお話しさせていただきます。遅ればせながらおめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

年度末まであと3カ月余りあります。一昨日、今年1年間のレジメを、このくらいありますけれども、振り返ってみました。よくまあこんなに多くのことができたものだと感慨にも似た気持ちを持つことでありました。中身を見ると、その施策の適時性、あるいはスピード性、確実性を感じました。事務局の皆さんの姿勢に心打たれるばかりで、敬意を表する次第であります。今、あと3カ月を切っております。4月に向けてのアクションを固めていってほしいわけです。例えばその1つ、コミュニティ・スクールであります。現在、事務局を先頭に1つ1つ実施に向けての積み重ねをしてきてくださっております。多分この4月から中学校区ごとにコーディネーターになられる方が配置されると思います。コミュニティ・スクールが確かな歩みとなるためには、このコーディネーターの方々の言動というのは大きく左右するのではないかと、こんなことを思っております。ゆえに事前のこの3カ月、事前の研修に意を尽くしていただければありがたい、そんなことをひそかに思っております。この他たくさんありますけれども、事務局のほうで整理して、1つ1つ丁寧にゆっくりとやっていっていただければと思います。

これからが冬本番であります。御自愛をいただきながら、年度末の締めくくりと新年度へのウォーミングアップをよろしく願いいたします。期待しております。

2 前回会議録の承認について

小澤委員長 それでは、次第に従いまして2番、前回会議録の承認について、事務局からお願いいたします。

米窪教育企画係長 前回12月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしく願いいたします。

小澤委員長 そのようで、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

小澤委員長 では、そのようにお願いいたします。

3 教育長報告

小澤委員長 3番、教育長報告に入ります。教育長から総括的にお願いいたします。

山田教育長 新しい年を迎えました。先週までは年末からずっと暖かい日が続いておりましたけれども、一転して本格的な冬の寒さがやってきました。けさは、私が起きて外へ出て息を吸ったら、鼻の中がバシバシバシってすぐに凍りました。氷点下10度をさらに下回る、そんな気温でありました。信州塩尻には、こうした厳しい冬がやっぱり人にとっても自然にとっても必要なんだなあと、そんなことをきょう実感したところであります。

それでは、きょうは議会でも話題になりましたけれども主権者教育についてを中心に、下で展示されている新春書初め大会、それから先日あったコミュニティ・スクール講演会のアンケートの内容について、概要の報告をしたいと思っております。

まず初めに主権者教育について触れます。元旦の全国紙の社説をそれぞれ読んでみました。国民主権とか、民主主義というテーマが多く目にとまりました。昨年6月には公職選挙法の一部が改正され本年6月19日より選挙権年齢が18歳以上に引き下げられます。ことしは7月に改正後初の国政選挙であります参議院議員通常選挙が予定されているわけでありましてけれども、市の選挙管理委員会では、新しく選挙権を獲得する若者に対して啓発パンフレットなどを作成配布し、投票を呼びかけていくということでもあります。長野県でも県の教育委員会と県の選挙管理委員会が連携を強化し、高校生に対する模擬投票や選挙の出前授業の実施などの対応を始めております。国政選挙の投票率であります、直近の衆参両院選挙とも全体では52%強でした。しかし、20代の若者は32から33%にとどまっております。昨年の夏、連合が行った若者に対する意識調査というのがあります。その中では、社会問題や政治に関する関心が、お金のこととかサブカルチャーなどに比べて極めて低いということがわかってきています。また、ニュースの情報源はもっぱらネットに求めて新聞離れが進んでいることなどが、結果として出ておりました。そうした中ですが、そのアンケートの中で、選挙では投票に行きたいとの回答が7割に上っているという結果も出ています。7割という、行きたいという思いと、現実の投票率の32%には大きな乖離があります。私たちは今、内にも外にも困難な課題をたくさん抱えて、それと向き合っております。こうした課題を解決して未来のよりよい社会、またよりよい世界を築いていくためには、若者たちの主権者意識を高めて、実際の投票率を投票に行きたいという70%に少しでも近づけていくことが求められていると思います。

こうした折に、これからの学校教育では何が必要かということを考えてみました。1つは、体験的、実践的な学習を通して国や社会の問題を自分のこととして捉えることができるよう関心を高めることが必要ではないかな。また、多方面から役に立つ情報を集めて、みずからの言葉で積極的に表現をし、友達や家族、地域の大人などのかかわりを大切にしながら自分自身でよくよく考えてみる。そして何が大切なのかを冷静に判断し、また責任を持って決定に参加する、そうした気持ちを育てていくこと。さらにみずからの意思に従って自信を持って行動するといった力を全ての教育活動の中で計画的に育てていくことが、何としても必要となります。こうした視点で力をつけていくということは、本市の教育振興基本計画の中で、育てたい人間像の生き抜く力を備えた人の育成とほぼ重なるのではないかなと、そんなことを考えております。こんな取り組みをことし力を入れられたらなというように思います。

次に書初め大会ですけれども、このセンターのロビーに新春の思いが込められた書初めの作品が展示されております。今月5日に新春書初め大会はあったわけですがけれども、この会が、ことしは開始半世紀に当たる50回を記念する大会でした。50年間にわたって書初め大会が続いてきているわけです。これを記念しまして、開会式では、書道連盟の役員の先生方が、新年をことほぐ福という文字と、えとの申という文字を楷書、行書、隷書、篆書で障子1枚分の和紙へ揮毫するという、そういった企画がありました。その状況を見ておりましたけれども、子供たちも保護者も全員が集中して、先生方の大きな紙に大きな太い筆で書く一挙手一投足を見逃さまいとして食い入るように見ている姿が印象的でありました。子供たちは恐らくその姿を脳裏に鮮明に刻んだのではないかなというように思います。質の高い師範の持つ力の大きさ、大切さを思い知らされました。教職員も親も、子供に生き方、学び方の範を示すことができるような本物の教師力とか、親としての力を持ちたいものだなあと思ったところであります。

最後に、先日行われましたコミュニティ・スクールの講演会のアンケートについて中身を報告します。参加者のアンケートをまとめていただきましたので、内容を確認させていただきました。幾つかを紹介したいと思うんですが、その中には、「塩尻市全体で設置することとなるので塩尻市の小

中全校並びに塩尻市全体が元気になるような取り組みにしていきたい」、「子供は宝です。やはり地域で育てることですね」、「無理をしない、背伸びをしない、三方よし、とても心に響きました。まずは動いてみることで強く思いました」などのように、この事業に対する期待や、まずは歩み出したいという意欲が多くの方のアンケートの文面から読み取ることができてうれしく思いました。また、「個人情報守秘義務がきちんと守って行われるのか、難しい点があるのではないかと思います」、「今以上に先生たちの負担が増してしまわないか正直なところ不安です」といった内容もありました。今後の配慮や、また意識改革も必要であると思われました。さらに、「共感して参加していただけるボランティアの方がどのくらいいらっしゃるか不安です」、また、「もっと住民に対してPRが必要だと思う」、「すぐに結果を求めるのではなく、時間をかけてつくり上げていくのがよいと思います」といった声もあり、地域住民への丁寧な説明を行うことにより理解や協力を得ること、また息の長い実践を通して、活動の質の向上や子供の姿としての確かな成果に結びつけていくことが必要だとも思われました。いずれにしましても、本年が塩尻市におけるコミュニティ・スクール元年となります。多くの方々とともに確かな足取りで、地域とともにある学校づくりを進め、地域社会総がかりで学校教育も家庭教育も、また地域の生涯学習も充実させ、地域内のきずなを深め活力を高めてまいりたいと思います。以上で、私からの報告は終わります。

小澤委員長 ありがとうございます。この際であります。教育長報告、あるいはそのほか、結構ありますけれども、お聞きしたい点ありますでしょうか。では、諸報告の中でもまた触れていただければと思います。次に進みます。

○報告第1号 主な行事等報告について

小澤委員長 報告第1号、主な行事等の報告についてであります。資料の1ページから6ページです。事務局より補足説明等ありましたら、お願いします。

中野生涯学習スポーツ課長 2ページをお願いいたします。1月10日、平成28年塩尻市成人式を開催させていただきました。大変ありがとうございました。レザンホールの大ホールで行いましたけれども、該当者754人に対し案内を送付させていただいて、右にありますように532人、出席率70.6%でございました。男性、女性の割合は、ちょうど見事に半々でございまして、266人ずつの参加をいただきました。ちなみに754人の中では、内訳は男性の方が384人、女性の方が370人ということですので、ほぼ半々の方が出席いただいたという状況でございました。実行委員会の中で8名、成人の方が中心となって自主運営をしていただきましたけれども、その中には市の職員が2名おりましたので、実行委員長になっておりますけれども、主になって企画運営をしていただきました。式典の内容につきましては、例年どおりといった形でございましたけれども、抽選会なども大変盛り上がりを見せて最後まで。成人の皆さん時間までにお入りくださいと言うと、しっかり入っていただいたり、席に座っていただいて、落ち着いた式で、塩尻はすごいなという、初めて私も携わらせてもらいましたけど、そんな感想でございました。ちなみに平成27年の出席率は68.4%でございましたので、若干出席率は伸びたという状況でございました。以上です。

小澤委員長 それでは、委員から行事等に参加された中でお感じになった点、お寄せいただければと思います。お願いします。

石井委員 今の成人式についてもそうですけれども、私は自主運営がされるようになってから非常に統一がとれるようになって、みんな静かになったなあというふうに記憶しています。その前までは、ちょっと荒れた気運もありましたけれども、非常に皆さん、自分たちでやるんだという気持ちが強くなってきたかなあというふうに思って参加させていただきました。

それよりも、私、気になっているのは、その前のスケート大会でございますけれども、本市の参

加人数が15人ということで、ちょっといかなものかなというふう感じてきたわけでございます。松本と合併して一緒に大会をやるというようなことになって、朝日村ともやっているわけです。全体が38人。あの大きなスケート場を半日借り切ってということで、何かもったいないなあというような気もしますし、またそうかといって、少ない子供は切っちゃっていかってということにもなりますし、そこら辺が非常に私は悩んだところですけども、当事者としてどのようにお考えになっておられるか、お聞きしたいと思います。

中野生涯学習スポーツ課長 当日はありがとうございました。今のお話のとおりで、年々と言いますか、昨年よりもやっぱり参加者が減っているということは事実でございます。私もそうですけど、小さいころから田んぼでスケートをやってきた私どもにとっては、大変スケートに接する機会が少なくなっているという事情、気象の状況もあると思いますけども、そんな状況が背後にあって、こういうスケート大会に出る子自体がですね、本当に少なくなっているという状況を目の当たりにしたわけでございますけども、ただ、ことしのリンクの状況も大変よくて、大会記録も出ておりました。そんな中で拍手も起こったりして、そういった形を見ますと、やはりこういった大会ももう少し盛り上がりができばなあというふうに思った次第です。参加者の減少については、どういった対策がとれるのかっていうのはなかなか難しいところかなあというふうに思っています。それが実感です。

石井委員 今、身近なところでスケートができなくなってきたというのが一番の原因だと思います。ただ、この塩尻市の場合は、冬季大会というような市民体育祭と、松本もそうですけども、そういう大会を銘打ってやっていますが、この上の段階、要するに中信大会とか県大会、このエントリーについてはどのようになっておりますか。

小林スポーツ推進係主事 ちょっとそちらまでは、こちらもしっかり人数把握等できておりません。ただ、松本体協さん、塩尻体協さんとの合同の打ち合わせのときに聞いた話ですと、やはり中信だとか上に上がる大会の人数も多少減少してきてはいるということは、去年は聞きました。

石井委員 要するに、エントリーするのに直接エントリーができるものか、あるいは市の大会でもって何位以上がエントリーしなさいとか、そういった規制というのはないわけですか。誰でもエントリーができるわけですか。

田下スポーツ推進係長 ほかの大会でも、現在のところ聞いている話でございますが、直接個人が中信大会に申し込めるような体制で他の競技も整っておりますので、スケートに関しても恐らく同じ体制かと思われま。地区予選というものは、今ではほぼ全ての競技でなくなっている現状でございます。

石井委員 はい、わかりました。せっかく市の大会やって大会記録が出ても、そういった上部大会へ自主的なエントリーってことになると、ちょっと出ない方も出てきちゃうかなあと思いますけども。今まではこの大会で何位以上は出られますよってということでもってやってきたと思うんですけども、そうすると15人の予選会ということになると寂しいかななんて思いました。直接エントリーができるってことになれば、結構だと思っております。はい、わかりました。

小澤委員長 それでは、成人式に参加させてもらった中で感じたことであります。運営方針も形式も変わってきていることもあるかと思うんですけども、年々若者の従順さというか、素直さというか、温室育ちというか、品位のよさ、そういうものを感じずるわけでありま。このことがいいことか悪いことか、これはわかりません。先ごろ精神学者の斎藤環さんが、18歳に投票権を下げたことに対して、斎藤さんは反対しているんです。斎藤さんいわく、肉体的、身体的には2歳成長は早まり大きくなってきているそうです。ところが精神的には4歳遅れていると言います。その遅れている者に対して18歳に下げるということは、これは一時的には投票率は上がるけど、この潮はさ

っと引いて行っちゃうと。こういうことを危惧しているわけです。そんなような記事を読んだり、あるいは実際にああいう従順な青年らを目の当たりにしたとき、学校教育は、これから何をしなくちゃいけないのかなあっていうことを思うわけです。先ほど教育長も内面の充実、主権者教育を例にとって子供たちの自立に向けた資質を話されたわけです。私も同感であります。知的な部分も大事でありますけれども、それを裏づけるキャリアと言いますか、キャリア教育を大事にしたい。私はキャリアは、非認知能力だと思っているんです。ここを充実させていく教育、これを相当色濃く、学校、あるいは家庭、コミュニティを含めて、そういう視点で事に当たっていかなくてはいけないのかなあと思いました。

もう1つよかったと思ったのは、ビデオレターであります。例年ですと教員が一方的にしゃべって、拍手をいただいて終わるわけですが、ことしは丘中の先生方がチームで学年会としてレターを送ってくれました。あれを見たときに、当時の学年会の心のありよう、一言で言えば、束になってチームを組んで子供たちの指導に当たっていた、その雰囲気が伝わってきました。これを見たときに、子供たちあるいは親たちは、やっぱり心が揺れるというか、感動すると思います。教師の愛を感じることでしょう。

それで、全ての学校がああいう形でやっていたらとても時間がなくなっちゃいますので、年に1校ぐらいはああいう色合いを出してくれるような工夫、そうしてもらおうと新たな成人式を感じることができると思います。実行委員のほうに丘中のあれはよかったとお伝えいただければありがたいと思います。

それから、もう1つです。私自身、この行事報告を読ませてもらい、目を開かされた思いです。12月17日社会人のためのビジネス読書会です。読んでみますと、12月17日木曜日は平日です。平日に仕事を休んで、しかも市外から遠く足を運んでお勉強に来ているわけであります。このことを考えるとき、今のビジネスマンの置かれた状況が伝わってくるわけであります。本来なら資質向上は、自分が勤めているその場所でやるのが、本来の姿であります。でも、そういう場が今のビジネス界には持てないのでしょうか。だから他に求めてくる。そして企業で働く人たちのイノベーションというか自己改革。新たな自分を見つけるための必要感と必死さが伝わってくるわけあります。よって、これへの試みをしたセンター支援課の方々の視点はすごいなあと感じ入るわけです。ニーズをしっかりとつかんで、テーマの視点をぴしっと定めて開校する、こういう姿勢に心を打たれたわけあります。参加者の感想を見させてもらおうと、発想力を高めることができた、新しい気づきがあった、あるいは柔軟になった、あしたの楽しみ等々があります。こんなうれしい感想はありません。そうしたときに、学校関係は盛んに研修会、講演会をやっているわけありますけれども、本当にこういう意気込みで講座を設定しているのか、研修内容を吟味しているのか、私自身反省する思いです。

報告は、よろしいでしょうか。

○報告第2号 2月の行事予定について

小澤委員長 次に2月の行事予定です。資料の7ページ、目で追っていただいて、全体に関係するのは、6日の文化講演会、薬師寺の和尚さんです。20日に環境トーク。2月の行事予定、いかがでしょうか。21日日曜日にはおめでたい会があります。

○報告第3号 後援・共催について

小澤委員長 次に後援・共催の報告についてであります。事務局から補足等ありましたらお願いします。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 8ページの56番でございますけれども、こども教育部の関係で、第3回グローバルコミュニケーションKYOTOという後援依頼がございました。中身は、全国で中学生、高校生100人という限定的な者を対象に、京都に在住する留学生と交流を進めながら日本文化を学ぶというような人材育成の事業であります。事業自体はそれほど問題のあるものではないですけれども、市の教育委員会としての後援基準に照らし合わせますと、全国で100人程度ですから、広く市民を対象として実施されるものではないということです。それから参加費が有料の3万円で、交通費、宿泊、食事代が別ということで、実費相当というにはちょっと高いということもございました。また、申請者が近畿日本ツーリストとなっており、主催は公益財団法人の全国修学旅行研究会ですが、代理店のような形で旅行会社が入っているというようなこともございまして、この件に関しては不承認とさせていただいております。以上です。

小澤委員長 不承認が1件あります。そのほかは全て承認であります。よろしいでしょうか。

4 議 事

○議事第1号 小中陸上記録会、市民水泳大会について

小澤委員長 それでは、議事第1号、小中陸上記録会、市民水泳大会についてを議題といたします。資料の11ページ、12ページです。事務局から御説明をお願いいたします。

中野生涯学習スポーツ課長 では、お願いいたします。12月17日の定例教の協議会の中でも若干お話をさせていただいた案件でございます。再度でございますけれども、小中陸上記録会、市民水泳大会についてということで、趣旨でございますけれども、長年実施をさせていただきました小中学生陸上記録会、それから市民水泳大会について、これまでどおり来年開催することが困難ということがありまして、小中学校の実情を踏まえ、今後のあり方を協議をさせていただきたいというものでございます。

2番の経過でございますけれども、まず小中の陸上記録会でございます。平成26年度までは松本歯科大学の陸上競技場で開催をさせていただきましたけれども、計測の機器が使用不能となったものですから、27年度につきましては、松本平広域公園の陸上競技場での開催になりました。日程調整をさせていただいたんですが、なかなか日程の確保ができないというようなことの中で、松本市・安曇野市記録会、これは中学生以上が対象でございますけれども、そちらとの同日の開催をお願いをして、第40回の記録会として開催を本年度はさせていただいたという状況でございます。松本市・安曇野市の記録会につきましては中学生以上を対象としておるものですから、本市の小学生の参加につきましては、特例としてお認めをいただいて開催をさせていただいたわけですが、競技時間が今までよりも大幅に延びてしまったということもございまして、来年度以降の開催は難しいというお話をいただいております。それとあとは運営してきた市陸協の人員不足からも難しくなっているという現状がございます。

(2)の市民水泳大会でございますけれども、小坂田の市民プールの廃止に伴いまして、来年から水泳大会のあり方について検討が必要になったということでございます。

3の内容でございます。来年の検討をするに当たりまして、12月15日に開催をさせていただきました校長会におきまして、現状と課題を整理してお話をさせていただいて、検討をお願いしますということをお願いをして、1月13日に校長会としての方向性が示されました。私どもとしては、この校長会の方向性を尊重して、次のとおり来年度以降の開催等について行っていきたいということでございます。

まず、小中の陸上記録会でございますけれども、塩尻市単独では開催をしないという考えでございます。校長会の中での方向性ということで意見集約の中身をお話させていただきますと、記録会

の廃止につきましては、廃止すべきではないという反対の方が3校、賛成が12校という状況でございました。反対、いわゆる廃止すべきではないという御意見の中には、やはり子供のそういった発表の機会が減る、それから、特に4年生の発表の場が少ないということの御意見をいただいております。逆に、廃止に賛成という御意見の中には、日程的に大変厳しい、それから5月、6月については運動会も入っているという状況があるということ。それから、子供たちを休ませてあげたいという意見。それから、職員の方が多忙ということも理由だという、そんな御意見をいただいております。

上のほうに戻っていただきまして、3行目になりますけれども、小学生につきましては、中信地区の陸上大会に一本化をしていきたいということでございます。これは5月22日に予定をされております。中学生につきましては、松本・安曇野記録会へ参加できるように対応していきたいということで、これはそこには書いてございませんけれども、5月21日に予定をされております。この記録会につきましては、これまでも市内の小学生は参加不可能であるということでございますけれども、日程のところをお知らせをして参加できるように対応していきたいということでございます。このほかに市民体育祭、それからぶどうの郷ロードレースなどの情報を提供をさせていただいて、できるだけそういった子供たちが出場できる機会を確保していきたいということでございます。

それから(2)、市民水泳大会でございますけれども、こちらにつきましては、これまでどおり水泳大会を開催させていただきたいということでございます。これにつきましては、校長会の中につきましては、廃止が5校、継続が10校という状況でございますけれども、いただいた意見の中には、やはり水泳大会の機会を残してほしいという意見がございました。開催につきましては、前回若干お話をさせていただきましたけれども、松本市の今井の市民プールを有力な開催場所としていきたいということでございますけれども、これにつきましては、引率につきましては学校ではなく家庭が中心に今も行っていたいておりますので、多少遠くはなりますけれども、それほど影響はないのではないかというような御意見もございました。ですので、水泳大会につきましては、今後、より多くの参加者が出ていただけるような種目を含め検討をしていきたいということと、繰り返しになりますけれども、今井の市民プールで開催をしていきたいということでございます。

ちなみに、今井の市民プールの開催の予定の時期でございますけれども、8月の第4週目の日曜日、松本市さんと協議をさせていただいた中でここがあいているということで、そこをめぐりに計画をしていきたいということで、これまでより約1週間ほど開催が遅れるということでございますけれども、若干寒くなることも心配されますが、今井の市民プールにつきましては9月の第2週まで営業をしておりますし、9月に入りましても大会を開催しているということでございますので、そんな日程でも大丈夫ではないかということで、今予定をさせていただいております。以上でございます。よろしくお願いいたします。

小澤委員長 ありがとうございます。12月の協議会でもこの問題を扱ってまいりました。方向性が出たようであります。御質問等ございますか。

陸上記録会について反対が3校で、その理由もわかりました。記録のいい子供たちは中信、あるいは松本平のほうへ行く。記録のふるわないとか、練習してきたその成果を発表したいという子供たちには、何らかの発表の機会を保障してやりたいと、こういう願いだと思います。そこで、そういう子供たちについては、市の体育祭だとか、あるいはぶどうの郷レースに参加するように仕向けていくといいます。市民体育祭にはそういう種目もあり、参加は無料だと思います。しかし、ぶどうの郷レースは有料です。ここら辺のところの手当てをしてくれるような方途というのはあるかどうか。

田下スポーツ推進係長 市民体育祭につきましては、いろいろな競技の中の1つの競技として陸上競

技を体育協会さんのほうに委託をいたしまして実施をしていただいております。他の競技とのやはりバランスもございますし、どのような手当ができるかにつきましては、またちょっと検討をさせていただきます。

小澤委員長 よろしくお願ひします。質問や意見ございませんか。

石井委員 私たちも12月に話し合ったときに、校長会の意見を尊重しようということになっていきますので、2、3校反対するところもあるんですけども、それはそれでいいんじゃないですか。ですから、ここで私どもがいろいろ言うことじゃないかなと思います。

小澤委員長 それでは、議事第1号の採決に入ります。2つに分けます。初めに小中陸上記録会について、平成28年度以降は塩尻市単独では開催しないという方向に決定してよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

小澤委員長 異議なしと認めます。

2つ目です。市民水泳大会、平成28年度以降も開催するという方向でよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

小澤委員長 異議なしと認めます。よって、議事第1号は原案のとおり決することにいたします。

○議事第2号 塩尻警察署と塩尻市内及び朝日村内における教育委員会との間の児童生徒の健全育成に係る相互連絡に関する協定書について

小澤委員長 続いて議事第2号、塩尻警察署と塩尻市内及び朝日村内における教育委員会との間の児童生徒の健全育成に係る相互連絡に関する協定書についてを議題といたします。資料の13ページから15ページです。事務局から説明をお願いします。

青木こども教育部次長（教育総務課長） それでは、議事第2号をよろしくお願ひいたします。塩尻警察署と塩尻市内及び朝日村内における教育委員会との間の児童生徒の健全育成に係る相互連絡に関する協定書ということで、非常に長い名前でございますが、そちらの前文にございまして、後段読ませていただきますけれども、児童生徒の安全を脅かす犯罪や事故等が多発する中で、少年の非行問題が多様化、深刻化している現状を踏まえ、塩尻市内及び朝日村内における小中学校の児童生徒の安全の確保と非行の防止を図るとともに、豊かな感性や情操、思いやりの心などを育み児童生徒の健全育成を推進するために協定を結びたいというものでございます。

こちらにつきましては、昨年8月4日に長野県教育委員会と長野県警察本部とが同様の趣旨、同様の内容で協定書の締結を行っております。本市では、これまでも警察と教育委員会、学校との連携につきましては、特に文書等はなくても申し合わせ、それから慣例等によりまして、連携を図りながら対応をしてきておりますが、明確に協定書として締結をしてより実効的に連携を強化していきたいという趣旨のものでございます。県レベルでは、県の教育委員会と県の警察本部ですので、同じ県の部署の中での協定でありますけれども、市町村になりますと警察署と市町村教育委員会という別団体になりますので、県の教育委員会からもそういう依頼がございましたし、先日塩尻警察署のほうからも要望がございまして、ぜひ協定をとということでありましたので、急遽ですが、今回、定例教育委員会場で御審議をいただきたいというものでございます。

協定の中身ですけれども、塩尻市内と朝日村内というのは、塩尻警察署の管内ですので、こういう形になります。エリア内には4つの教育委員会がございます。本市の教育委員会、それから塩尻市辰野町中学校組合の、両小野中学校の教育委員会、それから朝日村教育委員会、それから松本市山形村朝日村中学校組合、これは鉢盛中学校になりますけれども、この教育委員会4者と塩尻警察署との協定でございます。

連携の中身ですが、これもこれまで行ってきたものと変わらないものですし、県のほうで協定し

たものと変わりございませんが、第4条にありますとおり、先ほど言った趣旨のもとに相互に連絡をしたいということで、教育委員会と、あわせて関係する学校との協議し、連携を行っていききたいというものがございます。

第5条に対象事案がございます。まず1つ目は安全確保のための相互連絡の対象事案で、不審者の関係等になります。それから14ページに行きまして、(2)は警察署から学校への連絡対象事案でございます。それから、(3)が学校から警察署への連絡対象事案ということで掲げられております。

それから、相互連絡の範囲が第6条に定められておりまして、何を連絡するかということですが、対象事案に係る児童生徒の氏名、対象事案の概要、それから対象事案に関連する児童生徒の安全確保、再非行・被害防止並びに健全育成に資するために必要な情報ということになっております。

第7条では連絡責任者を定めておりまして、本市の教育委員会は、教育長ということになっております。

あとは手続き的なものが定められておりまして、15ページに行きまして、第12条に実施の期日というのがございます。本日の定例教育委員会、また、他のそれぞれの教育委員会で御承認をいただければ、2月1日から実施をしていきたいということでありますけれども、連携自体はもう既に行っておりますので、協定書で再確認をするというような内容になるかと思っております。

一応内容的にはそういう形でありますけれども、少しパフォーマンス的なことも警察のほうでは考えておりまして、今回お認めいただければ2月1日に警察署のほうで、各教育委員会の委員長さん方になるかと思っておりますが、その場で署名をしていただくようなことも予定しているようでございます。協定書の内容については以上でございますので、よろしく御審議をお願いします。

小澤委員長 御説明ありがとうございます。委員のほうから質問、意見をお寄せください。

石井委員 いいんじゃないですか。

小澤委員長 学校関係にかかわってきた者として、やっとなんと言いますか、ようやくここまで来たというような思いであります。協定の中身を読ませてもらうとこのとおりだと思います。この協議内容を双方がしっかり守っていただいて、拡大解釈するとか運用の妙を發揮するとか、そういうようなことのないように願うわけであります。

なお、学校と警察はこの協定についてわかるわけですが、往々にして保護者や地域は知らないでいるんです。言ってみれば情報の外にいる。そういうことはあってはならないと思うんです。保護者や地域への説明、これについてはどういう手だてを考えているのか、そこはどうでしょうか。

青木こども教育部次長（教育総務課長） まず協定書を教育委員会と警察署のほうで結びます。これについては、学校との連携もうたわれておりますので、校長会等で協定内容について説明をさせていただきたいと思っております。それから、実際の運用の中で、警察から保護者への説明ということですか。

小澤委員長 学校から保護者にアナウンスしていくこととなりますね。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 基本的には、そうですね。教育委員会も学校もこの協定書に基づいて連携をとっていきますので、そういった中で必要があれば学校を通じて保護者の皆さんに説明していくという形になるかと思っております。

小澤委員長 そのときにはペーパーを用意していただいて、学校、保護者へ確かに伝わる、そんな配慮をお願いしたいと思います。質疑よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

小澤委員長 それでは、議事第2号を原案のとおり決することよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

小澤委員長 異議なしと認めます。よって、議事第2号は原案のとおり決するものいたします。2月の月例にも書いてありますが、2月1日に警察署のほうへ出向き調印してまいります。

5 その他

小澤委員長 このほかに事務局から御説明等ございますでしょうか。洗馬焼きのパンフレットいかがですか。

中島平出博物館長 では、その他の項目で、本洗馬歴史の里資料館で洗馬焼きと信斎焼きの展示会を22日、今週の金曜日から開催をさせていただきます。洗馬焼き、信斎焼き等を大いにめでてくださいとともに、今回、歴史的な県内の一大産地をつくった、そういった歴史的な背景もこの展示会の中で探してみたいというふうに思っておりますので、雪の中でもありますけれども、駐車場は広く除雪してありますので、ぜひともお出かけいただければと思います。よろしくお願いします。

小澤委員長 過日、塩尻21、こういうチラシもいただきました。そこにはたくさんのイベントが紹介されています。昨日も自然博物館の新聞報道がありました。おもちゃの展示などの企画展です。野溝館長さんがインタビューに答えておりました。いろいろいい企画がありますので、足を運んでいただければと思います。委員のほうから、よろしいですか。

6 閉会

小澤委員長 以上をもちまして、定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後3時27分に閉会する。

以上